

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホームハーモニー(1階)		
所在地	苫小牧市字植苗51-156		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyoSyCd=0153680046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハーモニーはウトナイ湖や千歳空港まで約10分から20分程度の位置にあり、自然豊かな環境のもと、ホーム開設時から「家庭的な雰囲気」を大切にしながら法人の目指す「支え合って共に生きる」のケア実践と「心に寄り添い笑顔でサポート」をサービス提供の基本方針として日々利用者として接しております。また家庭的な雰囲気の中で、個々のご利用者の体調や行動に合わせた寄り添いの姿勢で、安心した気持ちでお過ごしいただけるように努めております。日々の生活においては、思い思いの生活スタイルを尊重し、穏やかに生活ができるように心掛けております。

コロナ禍以前は、近隣のウトナイ湖や隣接する道の駅に出かけ四季折々の季節感を体感していたように努め、近隣住民との茶話会や野外昼食会での交流、小学生の定期訪問等、地域交流を大切に施設運営を行っていましたが、コロナ禍により外出行事や地域・近隣住民との交流の自粛を余儀なくされております。その中で、今年度はコロナ対策を行いながら外出行事を実施するなど、コロナ禍前のような取り組みを少しずつ実施しながら施設運営を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

障がい者・高齢者福祉事業所を多数展開している社会福祉法人緑星の里が運営する開設22年目を迎える事業所である。複合施設資源を活かした緑星まつりやケアセンターでの余暇活動、小中学校との相互交流などは感染対策に係り自粛中である。運営推進会議は書面開催を交え、詳細な報告の下に毎回構成員から要望や助言等が出されており活発な会議となっている。今年度からユニット合同会議を設置し運営管理の統一や職員意見の反映に努め、正職員充足や就業環境、記録のシステム管理やケアマネジメントの体制、年間計画に基づく運営等きめ細かい整備がなされ、又、法人組織の虐待防止部会や身体拘束・感染・安全対策委員会等と連携し事業所内における適正を高めている。職員自身が取り組むヒヤリハット予見書を新たに設け、危険予知や未然に防ぐための対応力向上に向けている。法人研修や内部研修が充実しており、不適切ケア動画研修では職員個々の気づきや振り返りにつながっている。職員は利用者の状態像に応じ業務の手を止め安心するまで行動を共にしたり会話で思いを引き出すなど、ゆっくりと心地よく過ごせるための生活支援に尽力している。広大で自然豊かな敷地の利を生かし、時節においても散歩や法人売店での買い物、戸外で焼肉を楽しむなどの支援も特筆でき、家族も受診等で利用者の支えとなっている。「支えあって共に生きる」の法人理念を、関わる方々と共に育てている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「支えあって共に生きる」を利用者のサービス提供場面で活かせるように利用者、家族、職員一緒になって利用者の認知症と向き合った生活支援に努めている。また毎朝「心に寄り添い笑顔でサポート」のサービス基本方針を唱和することで質の良いサービスを提供できるよう努めている。	法人理念の「支えあって共に生きる」を支援の根幹に据え、且つ「心に寄り添い笑顔でサポート」の基本方針と事業所基本理念を標榜し事業所内要所に掲げている。毎朝の唱和や会議等で意識化を図り、支援の実際が理念の実践に結びつき全体のものとなるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、法人のお祭りへの参加や地域の小学生との交流を行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のため、交流は自粛している。	感染症流行以前の様々な地域との相互交流は自粛中であるが、独居で認知症や精神を患う地域住民の生活上の困り事へのサポートを法人と連携し対応している。寿司店等の飲食店からは行事食取り寄せの際に利用者に配慮した食形態での協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、地域の小学生やボランティア等へ認知症理解について発信しているが、現在は実現していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、コロナ感染者が増加時期については書面開催で実施し、感染者減少期間は、短時間開催で実施している。開催時は利用者やサービスの実際、施設運営、取り組み等の報告や意見交流を行っている。	現在は感染対策に係り書面会議で開催している。2か月ごとに利用者状況や取り組み内容、事故・ヒヤリハット等を詳細に報告している。会議メンバーからの意見や質問等も多数ありフィードバックも含め議事録に記しており双方向の会議運営である。	会議メンバー他、全家族に議事録を送付している。家族代表者以外の家族からも運営推進会議を通じ意見等が聴取できるよう取り組む考えを示しているので実現に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市と地域包括支援センターに対し事業所の実情や取り組みについて発信することで、協力関係を築くことに取り組んでいる。	市の介護福祉課とは実地指導や集団指導はもとより、必要書類の提出や運営推進会議で事業所情報を詳細に伝えるなどして指導や助言を得ており、適正な運営の維持・向上に向け協働関係を築いている。社会福祉協議会の鍵預かり事業の緊急時安否確認に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化に関する指針を定め、3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会にて身体拘束の有無等について確認をしている。また、身体拘束についての研修を定期的に開催している。	身体拘束適正化に関する指針に則り、委員会を開催し利用者全員の適正を検証すると共に予見事象の有無も確認している。これらに係る内部研修は年2回実施し、今年度は不適切ケア・スピーチロックと心理的虐待について動画視聴を交えて学び職員個々の気づきや振り返りとなっている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の新人研修や虐待防止・権利擁護研修において虐待防止について学ぶ機会があり職員が参加している。また定期的に施設内で研修を実施したり、年2回虐待防止チェックリストに記入し自身の虐待に関する認識を確認することで虐待防止に努めている。		

グループホーム ハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の新人研修や虐待防止・権利擁護研修において成年後見制度等について学ぶ機会がある。特に管理者は、新規利用者や退所等の調整等の事例において権利擁護の知識を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書や利用契約書の説明を実施し、入所に当たっての疑問・不安を取り除いている。また介護報酬改定の際にも変更点があれば説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望は、介護計画の見直しの際、また家族対応で通院を行う場合に、直接又は電話で聞き取りを行っている。その内容について施設運営に反映するよう対応している。	利用者は日々の中で職員に要望等を伝え、叶えるのが困難な帰宅要望にあっては本人が安心できるまで職員が寄り添っている。家族からも自己評価にある機会で見聞等を聞き対応しているが、更に知りたい事や気になる事を聴取できる仕組みを検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回の1・2階合同ケア会議や、人事考課、契約職員評価面接の際に職員の意見や提案を確認し、施設運営に反映するよう対応している。	各ユニット職員参画の合同ケア会議設置により共通認識に基づく運営強化や施設内物品の補充、介助補助具等への意見交換がなされ、個別面談体制以外に副主任を配置し身近で相談し合える態勢を整えた。正職員充足、公休増等を実現し全体最適へ向けた運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長やサービス課長が中心となって職場環境の整備に取り組んでいる。整備に当たっては職員の意見を反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修を受講する仕組みがあるが、コロナ禍により集合研修は殆ど実施されず、ZOOM等によるリモートでの研修が中心となっている。また虐待や身体拘束、感染症、リスクマネジメント等の施設内の内部研修を定期的実施し、ケアの向上・職員の育成に繋がるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により同業者との直接の交流は自粛しているが、ZOOM等を利用した研修会や交流については参加し、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学や利用者との面談時に、分からない点等の不安を取り除くため、質問等には丁寧に説明をしている。また入所開始時の戸惑い等に対しても「寄り添いの介護」を基本にし対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の不安を抱えている点を積極的に聞き入れ、ホームでの安心・安全の施設運営を理解して頂いている。特にホームから次の施設への方向性を気にされている家族が多く、同法人の施設への切れ目のない移動についても説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際、アセスメントをしっかり行い、利用者や家族が何を望んでいるのかを把握するようにしている。また家族への連絡を密にし状況変化の情報提供を随時相談をしている。医療機関との連携や必要により他施設の紹介をするなどの支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に「何かお手伝いができないか」の視点に立ち、無理強いすることなく自発的に継続できるお手伝いを提供し参加して頂いている。また本人のやりがいを引き出すような声掛けをするよう気を付けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会等が制限されていることから、電話でのやり取りや家族対応での通院を通じて連携を図り、家族と本人を共に支えるチームであることを意識して関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に家族の写真や使い慣れた整理タンスを持ち込むことをお願いしている。本来であればご家族や知人の訪問をお願いするなどしているが、それについてはコロナ禍により自粛している。	感染対策に係り家族との面会は内玄関ガラス戸越しで行い、電話の取り次ぎや手紙代筆、代読など大切な家族との関係が途切れないようにしている。現在、地域社会との接点や継続にあっては病院受診が主となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を配慮しながら食席の位置を決めたり、外出メンバー構成にも配慮しながら利用者間の関わりに努めている。できる役割をお願いし、一人ひとりに役割ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて、移動先と連携するなど相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の情報のもと日頃の思いをくみ取る努力をしている。誕生会の食事も本人の嗜好を確認して決めるようにしている。	職員は日頃の会話や接する中で利用者の意思を引き出したり、関わりの中で言葉にできない思いを汲み取るなど意向の把握に努め、内容は適宜記録しモニタリングにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活スタイル、居住地等を理解した上で、本人と話すことを配慮している。入所前後の環境変化の戸惑いにも寄り添いの姿勢で優しく対応するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画と連動し、日常の生活の様子や変化を担当職員と介護計画作成者、家族も交え介護計画に反映している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と介護計画作成担当者を中心に評価、モニタリングをし、家族と確認しながら介護計画に反映・実施している。モニタリングは全員毎月実施し、サービス担当者会議の中で状況把握と確認を行っている。	毎月、利用者全員のモニタリングを実施し現状確認と課題分析を行っている。介護計画は本人・家族の意向や医師の指示事項、状態像に応じた必要な支援を詳細に盛り込み、短期3か月長期6か月の期間を定め必要時に見直しも図り策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度より介護ソフトを導入し、日常の記録や介護計画等の記録管理を行っている。その中で介護計画作成者と担当職員が中心となり、日々の生活や体調の変化等を観察し、他の職員や家族の希望等の情報も得ながら利用者支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内施設と連携を図り、医療、リハビリについてオープン化を図り、利用者のサービス向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域との交流が自粛となっているため、法人敷地内の散歩や敷地内の売店で買い物の支援を行うようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人全体での精神科医による回診(月2回)があり、家族からも喜ばれている。また主治医を中心に医療連携を図っており、家族の希望や医師の指示で他の専門病院への紹介を受けている。	利用開始前のかかりつけ医による継続受診が可能で通院受診は家族対応であり利用者の状況やバイタル等を情報提供し適切な医療を受けられるようにしている。月2回、精神科医師による往診体制がある。受診結果は記録ノートやシステム内で職員も共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内での看護師配置はないが、併設の施設から夜間帯の緊急対応(転倒・裂傷)や健康上の適切なアドバイスを受けられる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要により家族の承諾を得て、主治医を変更して通院、入退院の連携を図っている。入院時は介護添書を提出して日常生活の様子にも連携をはかり、医療機関との良好な関係に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に将来的な施設の方向性の確認をさせて頂いている。病状の変化と生活レベル低下に伴い、適切な施設移動や医療機関への移動をご家族と相談させて頂き、利用者の負担にならないようご家族と相談させてもらっている。	利用契約時にグループホームにおける重度化対応に関する指針と施設移動同意書を説明し同意を得ている。医師の判断等に基づき家族と話し合いを重ねながら同法人施設や医療機関等への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的な急変は隣接看護師に依頼し、適切な指示で救急搬送も含めて対応している。また法人内研修で人命救急の講習会が開催される際には参加するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を計画実施している。日中、夜間想定、また火災や地震想定等様々な災害に対応できるよう計画を立てている。地域との協力体制については、今後の課題である。	日中・地震想定のみならず法人総合防災訓練を始め、昼夜を想定した火災避難訓練を実施し、今年1月の運営推進会議にて非常時における地域との協力体制の構築に至った。災害に備えた備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定している。	階段を使用する際の具体的な避難策にあっては、訓練を積み重ねつつ有効な方法を講じる意向であるのでその取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付けながら適切なケアに心掛けています。利用者への呼びかけについても「さん」づけを徹底している。	法人研修や内部研修で接遇に係るテーマを学び、意識づけを行い言葉の内容や語調等に留意している。個人記録をシステム管理し紙面文書類も管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会での主食希望の取入れや日頃の「寄り添い」から希望や思いを職員がくみ取り、ケアプランに極力反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など一日のおおまかな時間はあるが、利用者一人ひとりのペースを大切に柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は常に利用者の身だしなみに配慮し清潔感を保つように努めている。また家族に了解を頂き、季節感のある衣類の購入も対応している。		

グループホーム ハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で、食材の下ごしらえやテーブル拭きなど利用者と職員が一緒に準備や片付けをすることを大切にしている。	法人管理栄養士の献立で調理し、利用者も可能なところで一緒に作業している。誕生日は好みのメニューや季節を感じる行事食も取り入れている。敬老会や大晦日はオードブルや寿司などを取り寄せたり、屋外で焼肉をするなど食を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量のチェックの実施している。摂取できていない時は食材や飲み物の代替えやロミ剤を使用しての提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯使用の方は毎食後、洗浄を実施している。本人自ら歯磨き等ができる利用者に対しても、確認をしっかりと行うことで適切な口腔ケアに務めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や排泄パターンを活かし、トイレ誘導している。利用者の自尊心を損なわないように排泄支援を実施している。極力布パンツを使用して頂く等、本人の意向を尊重した対応を心掛けている	ケアカルテの記録システムに利用者全員分の排泄チェックを行い、注意点は赤で記し職員間で共有し適切な排泄に向けている。毎月のモニタリングで排泄状況を更に確認し誘導の回数や衛生用品を見直している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取への促しやヨーグルト、乳製品など摂取内容に工夫をこらして対応している。また朝の体操が便秘に良い事を本人に伝えて参加してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のペースに合わせて入浴促しを行っている。また利用者には希望入浴順番、湯加減の好み等も確認し希望に沿った形で対応をしている。	利用者1人が最低週に2回、午前の時間帯に入浴しているが、状況に応じて午後も対応している。入浴の声かけから浴後のドライヤーまで同じ職員が支援し、洗身や介助、湯加減等も希望に沿い、満足感や安心感に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルを尊重し、ホールと自室間の出入りは束縛せず、自由にホールや居室で過ごし、ベッドで横になって頂くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報提供書を確認しながら投薬支援を実施している。また状況変化を職員が把握し、必要に応じ医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る範囲で、食材の下ごしらえやテーブル拭き、おしぼりや洗濯物をたたむなど利用者一人ひとりに役割ができるよう心掛けている。		

グループホーム ハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ対策を徹底しながら外出行事を実施している。	感染状況を見極めつつ、広大な敷地内を散歩し時々の季節や風情を感じたり、法人の売店での買い物支援や春には安平町の道の駅へドライブ外出を行った。家族との病院受診も戸外に出かける貴重な機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のため、お金を使う場面は外出行事やヤクルトの訪問販売に限られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや家族にかける補助の実施。本人の依頼により電話をかけ、家族とのコミュニケーション維持に努めている。手紙の代筆や代読も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある装飾に配慮している。また採光の当たるところにソファを置き、心地よい日差しを肌で感じて頂いている。また玄関にもソファを置き、くつろいで過ごせる空間づくりに努めている。食卓テーブルはその場面に応じて配置換えを実施し、空間演出に努めています。	共用空間は広い造りで、ダイニングスペースの他、明るく大きな窓辺にソファコーナーを設けゆったりと寛げる環境を整えている。内玄関にもソファを置き気分転換や出入り時に一休みが可能である。季節行事の飾り付けや写真、日めくりを掲示している。高性能空気清浄器をユニットごとに配置し空気清浄に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、テラスに椅子やソファを置き、食堂ホール以外でも一人や他利用者と一緒にご過ごせる空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた整理タンスや家族の写真の持ち込み等は積極的にお願いし、生活環境の変化を極力防いでいる。	居室入り口に表札や飾りを付け見当識に配慮している。洗面所、ベッド、ナースコール、パネルヒーター、収納庫が備え付けである。馴染みの家具や家族の写真など大切な品々を持ち込み、好きな時にテレビを見たり趣味ごとをする利用者もいる。動線確保等の安全面に配慮し利用者と相談してレイアウトを変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室入口には場所が分かるように利用者の名前や目印を表示し混乱を防いでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホームハーモニー(2階)		
所在地	苫小牧市字植苗51-156		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0153680046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハーモニーはウトナイ湖や千歳空港まで約10分から20分程度の位置にあり、自然豊かな環境のもと、ホーム開設時から「家庭的な雰囲気」を大切にしながら法人の目指す「支え合って共に生きる」のケア実践と「心に寄り添い笑顔でサポート」をサービス提供の基本方針として日々利用者と接しております。また家庭的な雰囲気の中で、個々のご利用者の体調や行動に合わせた寄り添いの姿勢で、安心した気持ちでお過ごしいただけるように努めております。日々の生活においては、思い思いの生活スタイルを尊重し、穏やかに生活ができるように心掛けております。

コロナ禍以前は、近隣のウトナイ湖や隣接する道の駅に出かけ四季折々の季節感を体感していたように努め、近隣住民との茶話会や野外昼食会での交流、小学生の定期訪問等、地域交流を大切に施設運営を行っていましたが、コロナ禍により外出行事や地域・近隣住民との交流の自粛を余儀なくされております。その中で、今年度はコロナ対策を行いながら外出行事を実施するなど、コロナ禍前のような取り組みを少しずつ実施しながら施設運営を行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「支え合って共に生きる」を利用者のサービス提供場面で活かせるように、利用者、家族、職員一緒になって利用者の認知症と向き合った生活支援に努めている。また毎朝「心に寄り添い笑顔でサポート」のサービス基本方針を唱和することで、質の良いサービスを提供できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、法人のお祭りへの参加や地域の小学生との交流を行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のため、交流は自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、地域の小学生やボランティア等へ認知症理解について発信しているが、現在は実現していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、コロナ感染者が増加時期については書面開催で実施し、感染者減少期間は、短時間開催で実施している。開催時は利用者やサービスの実際、施設運営、取り組み等の報告や意見交流を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市と地域包括支援センターに対し事業所の実情や取り組みについて発信することで、協力関係を築くことに取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化に関する指針を定め、3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会にて身体拘束の有無等について確認をしている。また、身体拘束についての研修を定期的に開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の新人研修や虐待防止・権利擁護研修において虐待防止について学ぶ機会があり職員が参加している。また定期的に施設内で研修を実施したり、年2回虐待防止チェックリストに記入し自身の虐待に関しての認識を確認することで虐待防止に努めている。		

グループホーム ハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の新人研修や虐待防止・権利擁護研修において成年後見制度等について学ぶ機会がある。特に管理者は、新規利用者や退所等の調整等の事例において権利擁護の知識を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書や利用契約書の説明を実施し、入所に当たっての疑問・不安を取り除いている。また介護報酬改定の際にも変更点があれば説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望は、介護計画の見直しの際、また家族対応で通院を行う場合に、直接又は電話で聞き取りを行っている。その内容について施設運営に反映するよう対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回の1・2階合同ケア会議や、人事考課、契約職員評価面接の際に職員の意見や提案を確認し、施設運営に反映するよう対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長やサービス課長が中心となって職場環境の整備に取り組んでいる。整備に当たっては職員の意見を反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修を受講する仕組みがあるが、コロナ禍により集合研修は殆ど実施されず、ZOOM等によるリモートでの研修が中心となっている。また虐待や身体拘束、感染症、リスクマネジメント等の施設内の内部研修を定期的実施し、ケアの向上・職員の育成に繋がるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により同業者との直接の交流は自粛しているが、ZOOM等を利用した研修会や交流については参加し、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学や利用者との面談時に、分からない点等の不安を取り除くため、質問等には丁寧に説明をしている。また入所開始時の戸惑い等に対しても「寄り添いの介護」を基本にし対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の不安を抱えている点を積極的に聞き入れ、ホームでの安心・安全の施設運営を理解して頂いている。特にホームから次の施設への方向性を気にされている家族が多く、同法人の施設への切れ目のない移動についても説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際、アセスメントをしっかり行い、利用者や家族が何を望んでいるのかを把握するようにしている。また家族への連絡を密にし状況変化の情報提供を随時相談をしている。医療機関との連携や必要により他施設の紹介をするなどの支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に「何かお手伝いができないか」の視点に立ち、無理強いすることなく自発的に継続できるお手伝いを提供し参加して頂いている。また本人のやりがいを引き出すような声掛けをするよう気を付けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会等が制限されていることから、電話でのやり取りや家族対応での通院を通じて連携を図り、家族と本人を共に支えるチームであることを意識して関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に家族の写真や使い慣れた整理タンスを持ち込むことをお願いしている。本来であればご家族や知人の訪問をお願いするなどしているが、それについてはコロナ禍により自粛している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を配慮しながら食席の位置を決めたり、外出メンバー構成にも配慮しながら利用者間の関わりに努めている。できる役割をお願いし、一人ひとりに役割ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて、移動先と連携するなど相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の情報のもと日頃の思いをくみ取る努力をしている。誕生会の食事も本人の嗜好を確認して決めるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活スタイル、居住地等を理解した上で、本人と話すことを配慮している。入所前後の環境変化の戸惑いにも寄り添いの姿勢で優しく対応するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画と連動し、日常の生活の様子や変化を担当職員と介護計画作成者、家族も交え介護計画に反映している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と介護計画作成担当者を中心に評価、モニタリングをし、家族と確認しながら介護計画に反映・実施している。モニタリングは全員毎月実施し、サービス担当者会議の中で状況把握と確認を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度より介護ソフトを導入し、日常の記録や介護計画等の記録管理を行っている。その中で介護計画作成者と担当職員が中心となり、日々の生活や体調の変化等を観察し、他の職員や家族の希望等の情報も得ながら利用者支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内施設と連携を図り、医療、リハビリについてオープン化を図り、利用者のサービス向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域との交流が自粛となっているため、法人敷地内の散歩や敷地内の売店での買い物支援を行うようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人全体での精神科医による回診(月2回)があり、家族からも喜ばれている。また主治医を中心に医療連携を図っており、家族の希望や医師の指示で他の専門病院への紹介を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内での看護師配置はないが、併設の施設から夜間帯の緊急対応(転倒・裂傷)や健康上の適切なアドバイスを受けられる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要により家族の承諾を得て、主治医を変更して通院、入退院の連携を図っている。入院時は介護添書を提出して日常生活の様子にも連携をはかり、医療機関との良好な関係に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に将来的な施設の方向性の確認をさせて頂いている。病状の変化と生活レベル低下に伴い、適切な施設移動や医療機関への移動をご家族と相談させて頂き、利用者の負担にならないようご家族と相談させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的な急変は隣接看護師に依頼し、適切な指示で救急搬送も含めて対応している。また法人内研修で人命救急の講習会が開催される際には参加するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を計画実施している。日中、夜間想定、また火災や地震想定等様々な災害に対応できるよう計画を立てている。地域との協力体制については、今後の課題である。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付けながら適切なケアに心掛けています。利用者への呼びかけについても「さん」づけを徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会での主食希望の取入れや日頃の「寄り添い」から希望や思いを職員がくみ取り、ケアプランに極力反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など一日のおおまかな時間はありますが、利用者一人ひとりのペースを大切に柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は常に利用者の身だしなみに配慮し清潔感を保つように努めている。また家族に了解を頂き、季節感のある衣類の購入も対応している。		

グループホーム ハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で、食材の下ごしらえやテーブル拭きなど利用者と職員が一緒に準備や片付けをすることを大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量のチェックの実施している。摂取できていない時は食材や飲み物の代替えやロミ剤を使用しての提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯使用の方は毎食後、洗浄を実施している。本人自ら歯磨き等ができる利用者に対しても、確認をしっかりと行うことで適切な口腔ケアに務めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や排泄パターンを活かし、トイレ誘導している。利用者の自尊心を損なわないように排泄支援を実施している。極力布パンツを使用して頂く等、本人の意向を尊重した対応を心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取への促しやヨーグルト、乳製品など摂取内容に工夫をこらして対応している。また朝の体操が便秘に良い事を本人に伝えて参加してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のペースに合わせて入浴促しを行っている。また利用者には希望入浴順番、湯加減の好み等も確認し希望に沿った形で対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルを尊重し、ホールと自室間の出入りは束縛せず、自由にホールや居室で過ごしたり、ベッドで横になって頂くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報提供書を確認しながら投薬支援を実施している。また状況変化を職員が把握し、必要に応じ医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る範囲で、食材の下ごしらえやテーブル拭き、おしぼりや洗濯物をたたむなど利用者一人ひとりに役割ができるよう心掛けている。		

グループホーム ハーモニー

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ対策を徹底しながら外出行事を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のため、お金を使う場面は外出行事やヤクルトの訪問販売に限られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや家族にかける補助の実施。本人の依頼により電話をかけ、家族とのコミュニケーション維持に努めている。手紙の代筆や代読も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある装飾に配慮している。また採光の当たるところにソファを置き、心地よい日差しを肌で感じて頂いている。また玄関にもソファを置き、くつろいで過ごせる空間づくりに努めている。食卓テーブルはその場面に依じて配置換えを実施し、空間演出に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、テラスに椅子やソファを置き、食堂ホール以外でも一人や他利用者と一緒に過ごせる空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた整理タンスや家族の写真の持ち込み等は積極的にお願いし、生活環境の変化を極力防いでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室入口には場所が分かるように利用者の名前や目印を表示し混乱を防いでいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホームハーモニー

作成日：令和 5年 2月 21日

市町村受理日：令和 5年 2月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	<運営推進会議を活かした取り組み> 会議メンバー他、全家族に議事録を送付している。家族代表者以外の家族からも運営推進会議を通じ意見等の聴取ができるよう取り組む考えを示しているので実現に期待したい。	運営推進会議の議事録を家族に送付した際、議事録を確認した家族からの意見等を聴取する。	令和5年3月に実施予定の第6回運営推進会議の議事録を家族に送付する際、家族の意見等を記入できる用紙を添付し、郵送又はFAXで返信してもらうことで意見を聴取する。	2ヶ月
2	35	<災害対策> 階段を使用する際の具体的な避難策にあっては、訓練を積み重ねつつ有効な方法を講じる意向であるのでその取り組みに期待したい。	階段を使用する際の有効な避難の方法を確立する。	①地域住民の協力体制について、3月の運営推進会議にて確認する。 ②避難訓練実施の際に、地域住民の協力、法人職員の協力、避難用具を使用しての避難等、様々な方法で実施し、有効な避難方法を確立する。	1年間
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。